



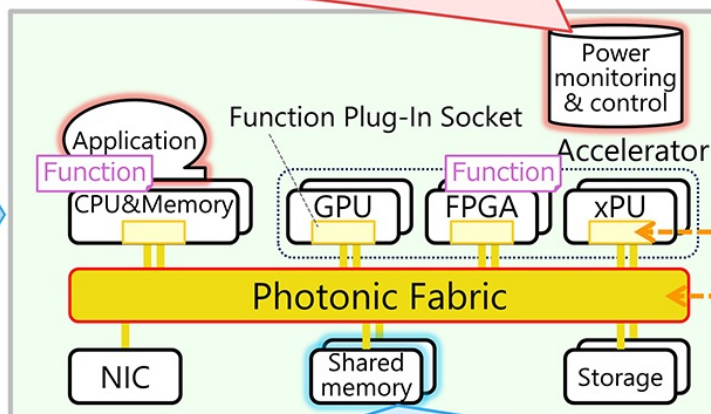
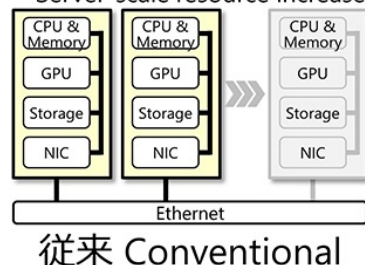
計算資源の効率的利用により、計算機の電力効率を高めます

概要

信号をより遠くへ届けられる光を生かして、CPU・GPU・FPGA等の計算資源を光電融合技術でより密接につなぎ、ラック規模からデータセンタ規模にまで、コンピュータをスケールアウト可能とします。また、計算資源の割当単位をサーバからより細かい粒度で割当可能とすることで、電力当たり計算能力向上をめざします。

ソフトウェア特性に合わせて計算デバイスを選択する **パワーアウェア動的配置制御**
Power-aware dynamic control allocates compute devices based on software characteristics.

サーバ単位のリソース増強
Server-scale resource increase



CPUを介さず **メモリセントリック** に異種アクセラレータ間のデータを交換
Memory centric data exchange among accelerators without going through CPU.



特徴

- CPUなどの計算資源間のデータ交換をメモリを中心として行うメモリセントリック
- あらゆる計算資源をリアルタイムに適切に組合せるパワーアウェア動的配置制御

利用シーン

- 電力制限が厳しいデータセンタの電力効率向上
- フレキシビリティが求められるシステムへの柔軟な能力追加

今後の展開

- 技術検証を通じて、仕様の詳細化を進めるとともに、IOWN Global Forumでの提案を行っていきます。

出展社

日本電信電話株式会社

問い合わせ先：
rdforum-scl-ml@hco.ntt.co.jp